

2025年度 第2回 ペット総合学科 教育課程編成委員会 議事録

1. 日時：2026年3月3日（火） 14:00～15:00

2. 場所：YIC 情報ビジネス専門学校
応接室1、来校およびリモート参加

3. 参加者

中野 正司 様	（山口県獣医師会防府支部長 なかの動物病院 副院長）
伊藤 未佑 様	（DOG SALON LIULU オーナー）
小田 政江	（副校長）
三船 龍	（事務長補佐）
森野 茂弘	（教務課長）
豊田 菜摘	（教務課長補佐）
引地 舞	（学科長）
澤谷 久美	（教員）

4. 議事

1. 副校長挨拶

2. 委員紹介

3. 今年度の状況

【資料1 参照】

学生状況

就職活動状況

検定予定

2026年3月3日に開催された「2025年度 第2回 ペット総合学科 教育課程編成委員会」において、今年度の教育成果と次年度に向けた戦略的改善策が詳述されました。

今年度の特筆すべき成果として、卒業予定者の就職内定率100%達成（2026年2月25日時点）および、各種検定試験における高い合格率（愛玩動物飼養管理士2級：95%、トリマー1級：最終取得率95%）が報告されました。夏季インターンシップを通じた早期内定獲得や、新設された「造形美術」による観察力の向上など、実務に直結した教育プログラムが奏功しています。

次年度に向けては、業界ニーズの変化に即応するため、「テディベアカット」の強化と検定

内容の刷新、ビジネスマナー教育の拡充、さらに山口大学の専門家を招いた「動物福祉」の特別講演実施などが決定されました。また、遠隔地でのドッグショー見学の見直しや、学生の希望に応じたビジネス・IT スキルの選択制導入など、教育の質と効率性を両立させる方針が示されています。

1. 今年度の教育実績および学生状況

1.1 学生在籍数と進路状況

今年度の学生状況および就職活動の結果は、極めて良好な推移を見せています。

1.2 検定取得実績

主要な検定試験において、高い水準の合格率を維持しています。

2. 2025 年度の主な取り組みと教育効果

今年度実施されたカリキュラムおよび行事は、学生の実践的なスキル向上とキャリア形成に大きく寄与しました。

インターンシップの成果：

夏季（2 年生）： 60 時間を実施。インターンシップ先からの内定獲得に直結し、就業意欲の明確化に繋がった。

冬季（1 年生）： 30 時間を実施（3 月中旬終了予定）。早期の職業理解を目的とし、多様な企業への訪問を実施。

新設・選択科目の導入：

造形美術（1 年生・必修）： 工作や模写、立体造形を通じて、犬や猫の形態を正しく観察する能力を養った。

動物看護学（2 年生・選択）： 教育課程外で 30 時間を実施。トリマーに不可欠な保定や疾患知識、救急救命を学び、実習犬の体調変化（膝蓋骨脱臼等）に気付く能力が向上した。

学外研修：

FCI インターナショナルドッグショー見学： 実習犬のスタンダードサイズの確認やショークリップの見学により、トリミングへの意欲が向上。

全国選抜トリマー選手権大会見学： 他校の技術レベルや施設設備の見学を通じて、今後の実習の指針を得た。

3. 継続課題と次年度の戦略的改善案

委員会では、現在の業界動向を踏まえた具体的な改善策が議論されました。

3.1 トリミング技術の市場適合理化（テディベアカットの強化）

従来の検定で主流だった「ケネルラムクリップ（顔剃り）」に対し、市場では「テディベアカット」の需要が圧倒的であるとの分析に基づき、大幅な方針転換を図ります。

現状の課題： 顔剃りの練習に偏り、企業の入社試験で求められるテディベアカットに十分対応できていないケースがある。

改善策：

2年生を対象にテディベアカット教育を強化。

専用ウィッグの購入および特別科目の設置。

検定試験を、従来のラムクリップに加えテディベアカットも選択可能な「サロントリマー検定」等へ変更することを検討。

3月31日のトリマーミーティングにて詳細を協議。

3.2 ビジネスマナー教育の拡充

接客業としての側面を重視し、コミュニケーションスキルの強化を図ります。

重点項目： 基本的な接客に加え、謝罪対応、クレーム対応など、実践的なスキルの修得。

実施体制： ビジネスマナー担当教員と調整し、次年度より本格的に導入。

3.3 行事・イベントの効率化

ドッグショー見学の再考： 佐賀県等での開催により移動時間が長大化（片道4時間に対し滞在90分）しており、費用対効果と学習効率の観点から、開催地に応じた実施の検討、または代替イベントの模索を行う。

4. 次年度（2026年度）の新規計画 4.1 専門講師による特別講演

動物福祉への関心の高まりを受け、最新の知見を取り入れます。

講師： 山口大学共同獣医学部 牛根奈々助教（One Welfare 教育研究センター）。

内容： 動物福祉の正しい知識、山口県内における野生動物救護の現状。

時期： 7月～10月頃を予定。

4.2 IT・ビジネススキルの選択制導入

電子カルテの普及やSNSを活用した集客など、動物病院やショップでのIT活用が進んでいる現状に対応します。

方針： 1年次の必須科目に加え、2年次にはより高度なパソコンスキル（Excel、Word等）を選択科目として設定。

4.3 教員体制の更新

非常勤教員の変更に伴い、学科長およびベテラン卒業生スタッフ（看護師歴10年）による授業の引き継ぎを行い、教育の質を維持・向上させる。

5. 業界動向に関する専門的議論

5.1 動物病院におけるトリマーの役割

学生の間で「動物病院でのトリミング」への関心が高まっていることに対し、中野委員（獣医師）を交えた意見交換が行われました。

現状： 山口県内では、看護師がトリミングを兼務する病院が多く、トリマー専任の雇用はまだ限定的である。

動物病院トリミングの特性： 皮膚病、高齢犬、介護が必要な個体、保護動物など、一般サロンでは対応困難なケースを扱う「やりがい」がある。

教育への反映： 看護助手の役割も果たせるよう、保定や診察サポートの知識を持つトリマーの育成が有効である。

5.2 国家資格化に伴う実習受け入れの影響

愛玩動物看護師の国家資格化により、一部の病院で実習受け入れに慎重な動きが見られるものの、病院のカラーによって対応は分かれることが確認されました。引き続き、個別の病院との連携を密にしながら、インターンシップの機会を確保していく方針である。

6, DOG SALON LIURU オーナー伊藤様ご意見

6.1 ビジネスマナーおよびベアカット

とても良いと思う

6.2 トリマーにおける動物看護学の必要性

現場に出てより必要性を感じている。パテラ、膿皮症、外耳炎などは特によく見かけるため学んでおくべきと判断される。

6.3 最近の流行

腸内細菌に関する関心が高いためそのような製品を多く見かける。そのような製品を理解するために腸内細菌の有用性やフードに対する学びもあった方がいいのではないかと。

次回の開催予定： 2026 年 5 月～6 月頃（2026 年度 第 1 回 教育課程編成委員会）